

書第十二號

案 起 昭和十四年二月十四日

上申昭和 年 月 日 施行 決定昭和十四年二月十五日

昭和 年 月 日

局長

書官

陳情書

秋田縣湯澤町本莊町間連絡鉄道敷設方針

秋田縣湯澤町長 今泉秀理 他六名

標記、件別紙、通提生有之候條、高覽ニ供シ候

裏面白紙

内閣文庫
14.2.13
第 覽

東内
北
書第
一
二
号

陳
情
書

一四、二、一三受領

陳情書

一 秋田縣湯澤町本莊町間連絡政府鐵道敷設方ノ件
右ハ數年來地方民ノ頗ル翹望シ數次陳情セル重要路線ニシテ東北振興上將又現下時局ニ鑑ミ全地方資源ノ開發ハ最モ緊要事ト確信致候、就テハ此際之ヲ實現方御高配ヲ賜リ度別記具陳此段奉懇願候也

昭和十四年二月十三日

秋田縣雄勝郡湯澤町長 今泉 秀理
秋田縣雄勝由利鐵道々路速進期成同盟會々長



東北局
宇都宮局長 殿

一 本地域ハ廣大肥沃ナル耕地ト山間部即チ元西馬音村以西島海山麓ニ連亘シ六千石ノ木材ト、石油、金銀、銅、鐵山等八十有餘鑛區ノ資源ヲ有スル地ニ有之住民極メテ勤勉ヲトシテ更生途上ニアリト雖モ山間部ノ如キハ高冷地帯ナルヲ以テ到底單一農業ノミニヨリ更生至難又優秀ナル鑛物有リト雖モ運輸ノ便ナク其開發極メテ遅マタルノ實情ニ有之候然ルニ本線ノ開通ニヨリ是等ノ寶庫ガ開發セラレ産業ノ興隆極メテ顯著ナルノミナラズ當該地域ニ於ケル資源ノ開拓ハ東北振興上唯一ノ事業ニシテ國益ノ増進ニ貢獻スル處甚ダ大ナルヲ確信スルモノニ有之候

二 本莊矢島間ハ昨秋國鐵開通シ沿線地方民ノ歡喜斜ナラサル處ナルガ是ヲ矢島町限りニ打切ラルルカ如キコトアリテハ交通機關トシテ萬全ヲ期シ難ク殊ニ前記森林中ノバルブ材供給モ一部ハ矢島驛ニ搬出スルヲ可トスルモ其大部分及鑛物ノ如キハ殆ンド全部湯澤方面ヘノ搬出ハ地理的自然ノ狀勢ニ有之候此際是等實情、御諒察ノ上更ニ鐵道追加豫定線トシテ雄勝郡西馬音内町ヲ經テ湯澤、本莊間連絡スル鐵道敷設ノ實現ヲ地方一般ノ渴望シテ止マザル處ニ御座候尚右ノ如ク羽越線ト奥羽線ト結び又更ニ若手縣一ノ関町トヲ連絡セシムルノ機運ニアリ既ニ之ガ期成同盟會ノ設立ヲ見タリ、而シテ更ニ大船渡ニ接續シ以テ日本海ト太平洋ヲ一直線ニ連絡スル最短距離トナリ軍事上極メテ重要路線タルハ言ヲ俟タサル次第ニ候

三 以上ノ鐵道敷設ニ関シテハ是マデ屢々秋田縣會ニ於テ其筋

ハ意見書提出シ又衆議院ニ於テモ請願ノ可決ヲ擧ケラレタル路線ニシテ第七十議會ニ於テモ地方民三千三百四十七名連署ノ請願書ハ貴衆兩院ニ提出セラレ衆議院請願委員會ニ於テハ可決セラレタリ 第七十二議會ニモ關係二十六町村長連署貴衆兩院ニ請願書ヲ提出シ又第七十三議會ニ際リ地方民ノ三千四百八十三名連署貴衆兩院ニ請願書提出シ可決ニナリ今回又七十四議會ニ貴衆兩院ニ請願セル地方産業開發上最モ重要ナル路線ナリトス

以上

一	湯澤矢島間距離	直徑ニ〇キロ 但シ迂于ヲ于回スル時ハ約四十キロ
一、一、一	全 全 全 人 林 人 口 産 口	七五、〇〇〇人 六〇〇〇石 九、〇〇〇町歩 （宮林局林業計画）
二	鑛 區	五二鑛區（矢島町地内ヲ除ク） 内探鑛區六ヶ所
	右ハ許可済ノモノニテ既ニ探鑛又ハ探鑛中ノモノナ リ外ニ許可出願中ノ約三〇余件アリ	

雄勝由利鉄道々路速進期成同盟會
副會長

長谷山泰三

秋田縣雄勝郡田代村

西馬音内町長 飯塚彦四郎

秋田縣西馬音内町
電話 四六番

京野利助

三輪村長 中川常藏

秋田縣陸奥郡三輪村

新成村長 米山富治

元西馬音内村長 金隆吉

めくれず